

こどもとしょかん 10・11月あかべえ展示コーナー

『家族～11月第3日曜日は「家族の日」』

タイトル	著者名	出版社	出版年
おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん	長谷川 義史 作	BL出版	2000 E/オ
おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんの……。5歳の男の子の素朴な疑問をきっかけに、時代をさかのぼっていきます。自分が生まれてくるまでに、ご先祖さまがずっと続いてきていることがわかるおはなし。			
みんなあかちゃんだった	鈴木 まもる 作	小峰書店	2000 E/ミ
お母さんから生まれた赤ちゃんが、3歳になるまでの成長の様子を細かく描いた絵本。お父さんもお母さんも、みんな赤ちゃんだったころがあるのです。			
ぼくとパパ	セルジュ・ブロック 作 金原 瑞人 訳	講談社	2007 E/ボ
ぼくは、パパが大好き！いつも、ぼくと遊んでくれる。モンスターのお面をつくってくれたり、上手に絵を描いてくれたり、散歩に出かけたり。お家で仕事をしているお父さんと、お父さんが大好きな男の子のおはなし。			
かあちゃん取扱説明書	いとう みく 作	童心社	2013 F/イ
かあちゃんはいつもガミガミ怒ったり、「おいしい」と言った料理を何日も続けて作ることもある。どういときに怒るんだろう？とうちゃんは「かあちゃんの機嫌をよくするには、ほめるといい」と言っていた。機械に扱い方の説明書があるように、かあちゃんの説明書をつくってみよう！			
世界一の三きょうだい	グードルン・メプス 作 はたさわ ゆうこ 訳	徳間書店	2016 943/メ
パパとママが出かけることになり、大学生のお兄ちゃんのアパートで過ごすことになった、小学生のマキシとまだオムツがとれていない弟・レオン。はじめてコインランドリーに行ったり、大学の講義を聞いたり、なかよし兄弟のてんやわんやな1週間のおはなしです。			
みてろよ、父ちゃん	くすのき しげのり 作	文溪堂	2016 F/ク
明日は運動会。かけっこで一番になれるのに、父ちゃんは仕事で見に来られないという。父ちゃんに1番になったところを見てもらいたいのに…。			
じゅげむ(落語絵本)	川端 誠 [作]	クレヨンハウス	1998 E/ラ
生まれてきた赤ちゃんに良い名前をつけてあげようと、お父さんは和尚さんに相談に行きました。縁起のよい名前をつけて長生きできるようにと、和尚さんに教えてもらった言葉を全部つなげたら、長い名前になってしまいました。お父さんお母さんのわが子への愛情が感じられる落語の絵本。			
うちってやっぱりなんかへん？	トールル・コーヴェ 作 青木 順子 訳	偕成社	2017 E/ウ
パパとママはちょっと変わっています。わたしは普通がいいのになあ。友達の家族がうらやましく思うこともあるけれど、やっぱり自分の家族が一番と思えるおはなしです。			
てつぞうはね	ミロコマチコ 著	ブロンズ新社	2013 E/テ
「てつぞう」は、白くてふわふわのネコ。春も夏も秋も冬も、いつも一緒にいたのに、8回目の冬、てつぞうは動かなくなってしまった。大好きなてつぞうとの思い出を描いた絵本。ペットだって大切な家族です。			
かぞくになって!	ヒラリー・ロビンソン 文 マンディ・スタンレイ 絵 きむら ゆかり 訳	絵本塾出版	2017 E/カ
クラスで飼っているハムスターに赤ちゃんが生まれ、話し合いの結果、ハムスターの赤ちゃんに新しい家族を見つけることになりました。3歳の時に養子として迎えられたアルフィーは、「新しい家族になるときの気持ちがわかる」と言います。家族にはいろいろな形があることを伝える絵本です。			